

な か ま

福岡県知的障害者施設家族会連合会 会報

発行
福岡県知的障害者
施設家族会連合会
(略称：福施連)

編集
広報委員会

〒812-0854
福岡市博多区東月隈
3-1-4-106
☎/FAX (092) 503-0579

願いを実現する行動を 「地域共生ホーム」は道しるべ

小賀教授熱く語る

令和2年2月9日、クローバープ

ラザにて、福岡県知的障害者施設家族会連合会主催、福岡県知的障害者福祉協会共催による、令和元年度第2回福施連研修会が開催され、北九州市立大学教授の小賀久先生を講師としてお迎えし、「地域共生ホーム実現のために」をテーマにご講演いただきました。

研修会の冒頭、共催の福岡県知的障害者福祉協会木高会長のご挨拶では、福祉現場の人材不足についてのお話がありました。福祉協会ではこの人材不足に立ち向かうべく、大学や企業と連携し「福祉イメチェンプロジェクト」と称した取り組みを実施しています。その中で、学生や子供たちに福祉の仕事の正しいイメージを伝え将来の人材確保の種まき

を行っているとのことでした。

小賀先生によるご講演内容は前回の研修会に続き、全施連編著「地域共生ホーム」の解説や使い方についての非常にわかりやすい説明でした。



小賀先生は、巻末資料として掲載されている「施設の暮らし点検シート」を用いて入所者の日々の暮らしの基本的な事項を評価し、それを土台として当事者・家族会と施設・法人関係者が知恵と力を合わせて改善のための努力に協働することが大切、と言われています。

また、小賀先生はこの本の使い方として、各家族会や福施連において、1回1時間程度、みんなだまわし読みし、1年程度かけて理解を深めていく、という方法を提案されていました。1回読んで終わりではなく何度も読み返し、それを行動に移せるようになるまで理解を深める必要があると思われました。

複数の専門家の先生方が長い時間をかけ、我々障害者の家族のために検討を重ね出来上がった「地域共生ホーム」。わが子がわが兄弟らの安全安心快適な暮らしを実現することができるか否かは、我々がこの本を有効に活用できるかどうかにかかっています。

とても良かった 研修会

アンケートより



▼小賀先生の「かつせつ」の良さから分かり易いでした。▼同じ内容でも構いません。広く一般に知ってもらう事が良いかと思いました。▼高齢化への対応 病気・介護者エクシード活用、チェックして施設具体例の発表を聞きたい。施設で出来ること国ですることの分類を先生より聞きたい。現実課題への提案が素晴らしい。▼地域共生ホームも記載されているような悪い例を根絶できるように障害のある人達のために親や支援者はがんばっていかなければ障害のある人たちの幸せはないと思います。施設に言われることに服従するのではなく子供を人質にとられているのではなく考えるのではなく支援者が声をあげる

べきだと思えます。声をあげると排除されそうになるのが現実として発生しています。▼研修会に若い職員を参加させてください。▼薬漬の例などがあれば知りたい。あじさい園についても。▼良く判ったというより改めて福祉の仕事に携わるものとしてのあり方を考えさせられた。▼家族会について本来、施設側、家族側共に対等な関係であるべきですが何でも施設側が強いです。『施設』は大変な人を見てあげている。『家族』は大変な子を見てもらっているのに色々意見言ったら、施設が不快な思いをし機嫌を損なう。最後まで波風立てずにこのままでよいと思う人が多いようです。▼色々な専門的な事、情報がとても分かり易かったです。しらない事もあり、勉強になりました。▼施設側の手が足りない(目が届いていない)では、いけないと思うがなかなか施設に言いにくい。最後の質問より思った事。▼もっと施設職員に勉強してもらいたい。家族と一緒に研修することで、家族の方の考えや希望を聞いて考えるきっかけに

なると思えます。▼本当に！そうあって欲しい福祉現場であって欲しい。でも現状は施設の先生がおひとりも参加戴けてない(職員数が少ないので、お休みさえ充分に取れていないのが理由)。▼今日は家族と施設関係者両方に対する研修内容でしたが、施設関係者に特化した内容で、また家族に特化した内容に分けて研修を開催して欲しい。特に『専門性』を理解するためには、まだ時間が足りないと感じました。▼オムツの件、家でやってみようと思いましたが、講師の先生の話は具体的にとてもよくわかりました。最後の席にいた者として、ただ一言を申し上げます。それは、お世話になっている方の私語が耳障りで仕方がありませんでした。▼地域共生ホームを買ったまま、一ページも読んでなかったけど、今日から一ページずつでも読んでみたいと思います。▼施設の研修でも話してもらおう機会を作りたい。▼小賀先生と手元の本に目を通しながら話を聞くと大

変判りやすかったもので、本日と同様のテーマで第二回目の研修会を希望します。施設側の意見を聞けて参加者になった。▼入所者高齢化、ついに住処としての施設。施設の枠を越えて、皆で施設の生活を快適にしていこうというこの様な学びの場、力を結集する集りがあることをとても心強く意義あること(親個人として言えないことも、このような力が、行政、社会を変えていく)ことで施設も変わっていく可能性があるのではと期待)と思いい感謝します。

- ◆ 以上が研修会参加者のアンケートに寄せられた感想や意見ですが、この他に「良く判った」36名、「まあまあだった」5名ありました。
- ◆ 次回研修には「もう一度今回のテーマを望む」が22名、「もっと知りたい虐待防止法」が18名で、この研修会が深く理解されたことを表しています。
- ◆ 次回の研修テーマはこの2つの中から選ぶことになりそうです。

福岡県障がい福祉課に

要望提出

令和2年2月12日午後1時半から福岡県障がい福祉課と意見交換会を行いました。

福岡県からは中島障がい福祉課長と、山本自立支援係長、林企画管理係長他1名が出席され、福祉連からは八木会長他10名が参加しました。

要望事項は、先に提出していた大会決議文の他に追加として施設の職員体制の改善・職員の研修制度の強化・65歳で介護保険に変わる事は反対・年金二級利用者の医療費二割・三割負担の改善・施設と地域住民との交流できるゆとりの施策などを求めました。中島課長からは、入所施設を視察出来る体制を新設したとの発言がありました。

北九州市公明党議員団と

意見交換

令和元年11月6日北九州ロイ

ヤルホテルで公明党市議からの申し入れによる意見交換を行いました。

高瀬弘美参議院議員のほか福岡県議会議員・北九州市議会議員以下12名、福祉連は八木会長・奥・横澤両副会長が出席しました。

発言内容は上記県福祉課と同じでしたが、高瀬参議院議員は時々頂き「要望はしっかり検討、議会や政府に届けます」と返答されました。

施設家族会紹介

わたつみの里

わたつみの里は、福岡市東区志賀島にあり、入所と通所の二つの保護者会があります。

活動としては、ほぼ毎月一度は合同で見守りボランティアと称し、利用者さんの見守りや希望する利用者さんと一緒に施設がある山を下り港までウォーキングに出かけたりします。

その他に保護者会で施設内外の大掃除や送迎用車の洗車なども、志賀島にある施設まで出向いて頑張

北九州市障害福祉課と

懇談

令和2年2月7日13時半から北九州市総合保健福祉センターにおいて障害者支援課と意見交換会をおこないました。福祉連の要望は事前に提出していた問題の特に職員体制改善など5項目の回答を受けて質疑応答を行い、最後に各区役

って行なっています。

また、秋には毎年恒例の雁ノ巣レクリエーションセンターのレジヤール農園で芋掘りを親子一緒に行い、楽しい一日を過ごします。

芋掘り風景



所にある悩み事相談要領の説明がありました。

市からは大久課長・重吉係長・木下職員が出席され、福祉連から八木会長・奥副会長他4施設家族6名が参加しました。

第16回全施連全国大会 IN 熊本

福祉の後退を許さない 真の共生社会を目指そう

日時 令和2年10月21日(水)~22日(木)
場所 熊本ホテルキャッスル

大会参加費 研修会 7000円
情報交換会 7000円

ホテル案内は別途後便

〈お願い〉今年は大会会場が近いので各施設から一人でも多く参加しましょう。各家族会・保護者会から4名位の出席を目指しましょう。
また、近いので一日だけ参加して日帰りも可能です。

「地域共生ホーム」

わたしの感想

千代の里

サービス管理責任者 花田

この本は、理想とする入所施設の在り方を、利用者・保護者側からの視点で記載しているだけでなく、施設側がそれを出来ないのは、どういうところに問題があるのかということまで記載されているところが、大変素晴らしいと思います。

施設臭やトイレトーパー等を含む環境整備、職員の人員配置や、専門性、現場の苦悩、権利擁護の問題等などは、我々施設職員には本当にあるあるの課題です。

今後も継続して取り組むべき課題がきちんと整理でき、再認識させられました。

蓮の実園家族会

会長 庄山 祝

2月9日の研修会にて小賀久

教授のお話とともに「地域共生ホーム」を読み、入所施設での安心・安全・快適に過ごすためには付録に掲載されている「施設の暮らし点検シート」の66項目をチェックすることで利用者の生活状況が把握できることが理解できた。

姉が入所している蓮の実園は、蓮の実団地と同時に2年前の4月八女市の山奥から市街地に移転してからは、一人部屋になり施設臭もなく職員の通勤便も良くなった。

又職員採用にも繋がったようだ。しかし厚労省の働き方改革により、職員の年次有給休暇の付与などでシフトが組み辛くなり、入浴日数が減るなどの支障が出ている。

この本を読んで後見人制度・施設利用契約など、福祉行政に対する問題点が理解できた。

さいがわ学園家族会

会長 村上 誠治

現在利用している入所施設を快適で人間性豊かな支援が受けられる住

まいへ改善していく道しるべとして、理解することが大切であるといわれています。

特に暮らしの点検シートは生活の基本的な事項を点検し、確認された問題点を浮き彫りにして、改善・向上していく必要がある事について、わかりやすい手段・方法であると思います。

ただ項目が多くて、現在の家族会の活動では、無理なこともあるので早朝や夜間については学園に依頼して、現在の状況を真摯に回答してもらい、今後の利用者の安心・安全・快適な生活向上に役立てていきたいと思えます。

このような指針を示して頂いたことに感謝しますと共に、家族会の皆様と一緒に地域共生ホームを実現する意欲が湧いてきました。

周防学園 周防の会

会長 衛藤 勇

障がいのある利用者のため住環境を少しでも良くしようと学園へその

都度意見具申してきましたが、系統だった検討ではなく、点としての改善お願いであり、線としての一貫した共通の教材がない状態でした。

しかし、本書の購読により基盤として、当たり前のことを当たり前として物事を捉え、安心・安全・快適な暮らしを実現する基準として、施設の暮らし点検シートが紹介され、利用者とその家族が施設職員と共にその問題改善に取り組む為の指針として、話し合いを重ねながらよい施設づくりに努めます。

編集後記

世界中コロナ肺炎騒ぎで大変です。先ずはお互い命を守りましょう。

元職員によって施設利用者が19人殺害され、24人が重軽傷を負われたやまゆり園事件が、被告の死刑判決で終わりました。

当然の判決ですが植松を犯行に走らせた障害者支援現場の不十分な実情は語られていません。

福祉制度の貧しさや、生活の厳しさから生まれる優生思想は私達の中にも潜在しています。障害者の幸せ造りは私達の幸せ造りでもあり、学び合い前進しましょう。